

◎決算特別委員長（大 類 好 彦 委員）

再会いたします。引き続き、「おばねクラブ」の質疑を許します。塩原委員。

◎塩 原 未知子 委員

引き続き、「おばねクラブ」の総括質疑、質問させていただきます。

一つ目は、婚活支援について、市のほうで協力体制など、どうなっているのでしょうか。お聞かせ願いたいと思います。

◎決算特別委員長（大 類 好 彦 委員）

社会教育課長。

◎社会教育課長（間 宮 健 一 君）

お答えいたします。尾花沢市には結婚促進協議会LaLaネットというのがございまして、一般質問等でもお答えしてきましたけれども、市としましては、そちらの事務局を担当させていただいております。基本的には、LaLaネットの皆さんは個人マッチングということで、そちらのほうを中心に活動しておりますので、我々は事務局といたしまして、県、それから他市町村との連絡調整とか、または婚活プラスの関係の事業とかの調整などについて、なるべく事務的なことは市として活動の支援という形でさせていただいて、会員の皆さんにはあくまでも個別マッチングというところに専念していただくという形での支援という形で、今までさせていただいております。

◎決算特別委員長（大 類 好 彦 委員）

塩原委員。

◎塩 原 未知子 委員

ありがとうございます。何度か、そのLaLaネットの組織のことをお聞きしましていたところなんです。その他に、婚活をいろいろ活性化させようという市内近隣の組織などあると思います。最近、チラシを見たんですけれども、9月15日に何か民間のほうで企画しているイベントがあるそうですけれども、そちらのほうは市のほうで何か関係していたり、支援などをなさっているのでしょうか。お聞きしたいと思います。

◎決算特別委員長（大 類 好 彦 委員）

商工観光課長。

◎商工観光課長（五十嵐 与志一 君）

9月15日に開催されます婚活支援事業についてお答えいたします。チラシ等各所に貼らせていただいておりますが、「らぶこみ」というイベントを計画しております。この事業につきましては、尾花沢市の商工会の青年部と大石田町の商工会青年部が連携をしまして、独身の方々の出会いの場を設けまして、婚活につなげ

ていこうという事業でございます。

商工会青年部では今回の婚活事業をはじめとしまして、後継者育成や地域活性化につながる事業を計画したいということでございましたので、国の緊急雇用創出事業を活用しまして、事務局となります商工会のほうに事業を委託し、1名臨時雇用しています。それと支援をうちのほうでやっているところでございます。以上です。

◎決算特別委員長（大 類 好 彦 委員）

塩原委員。

◎塩 原 未知子 委員

ありがとうございます。「らぶこみ」という変わった名前ですけれども、地域の皆さん、特に若い人たちが企画するそういうイベントに対しては、ぜひとも影ながら表ながら協力していただきたいと思います。特に、市役所庁内にも、まだ結婚なさっていない独身の方々多いと思いますので、ぜひそちらのほうに参加していただきたいと思っております。なかなかやはり女性の参加が少ないということで、人数そんなに大人数ではないようですけれども、女性の参加をぜひ望んでいるということでしたので、ぜひ広報支援などをやっていただきたいと。もう少しですので、もう締切、締めたかもしれないんですが、まだ女性が足りないということをチラシと聞きましたので、ぜひ庁内からでも結構ですので、何人か婚活支援、民間でやっている支援もぜひ体験なさって、企画のほうに取り入れていただきたいなと思います。さまざまこれから地元でもこういう動きをいろんなグループが発生的に起こった場合には、ぜひともそういう支援のほうをしていただきたいんですけれども。金額ではなく広報的なことのほうが、私思うには力になるかと思っておりますので、その辺りどうでしょうか。何か支援の手立てとか、用意なさっているところはございませんでしょうか。

◎決算特別委員長（大 類 好 彦 委員）

商工観光課長。

◎商工観光課長（五十嵐 与志一 君）

参加者の募集につきましては、8月15日号の市報に全戸折り込みチラシを入れさせていただいたところです。又、庁内にもメール等で周知をしまして、男性25名、女性25名ということで、男性はもうすでにいっぱいになって、抽選といたしますか、ちょっとその中から調整をしてというお話でございました。女性が少ないということでありましたので、今日うちのほうでちょっと声がけを実際やっているところでございます。以上です。



先ほど横町という地域名が出たので、そういえばと思い出したのは、秋の運動会をいつも地区でやっております。30年近くなるんですけれども、だいたい最後にバケツリレーというのがありまして、みんなと一緒にゴールを目指すときに、みんながバトンリレーみたいな形で、何かを着せたりとか持たせたりとか、いつも市長さんに来ていただいて、最後を盛り上げていただくところなんですけれども、地域ではやっぱりそういう絆づくりというか、隣にどんな人たちが、まあお父さんお母さんたちは分かっているかと思うんですけれども、お子さん、もしくはちょっと離れた所に行って戻ってきたよというようなお子さんがいたりとか、臨機応変、地域では変わっていくと思いますので、ぜひ地域のいろんな行事にかこつけて、ぜひですね、ご近所さんの顔見せができて、さらには絆を深めるようなレクリエーション、そのようなことを充実させて、防災意識、さりげなく地域の皆さんとの連携を図るような仕掛けみたいなのを作っていただければ良いのではないかなあなんて思っているところです。ぜひ今後、いろんな盆踊りだったり、さまざまの祭りだったりあると思うんですけれども、そういうふうな地区地区で無理なく、新たにイベントを設置するのではなくて、そういう形で防災意識を高めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

次の質問に入ります。先ほどから路線バスの話が何度か出ていると思うんですけれども、私のほうからも、その路線バスの中で銀山線、特に観光のお客さんも含めるということで、今まで話になっていた市民の目線プラス観光で来たお客さんのためのということで、ぜひこの路線に関して、もっと見直しを図っていただきたいかなあなんて思っています。

なぜかというんですね、実は私よく思っているんですけれども、ダイヤと言って、JRでいくとダイヤなんでしょうけれども、路線バスの時間の、発着場所の時間ですよね、これ非常に自分たちの生活に本当にこれで合っているのだろうかというのが疑問に思うぐらいの内容なんだなという思いながら、改善がなかなかないかなあなんて思っているところです。

一つは、大石田に高校生、まあだいたい大石田駅から発着するんですけれども、ピタッと合うような時間がないんですね。前は尾花沢のバス停まで行って、そこから乗り換えて大石田まで行くという大変不便で、今はもう皆さん車で大石田の駅まで送っていきます。でも考えれば、もしかしたらその早い時間に大石田駅まで行くような、どこかを經由してでも良いからあれ

ば、もっと便利なんじゃないかなと思ったり。

あとはですね、銀山線は観光のお客様で必要な何人かの席数とっているんであれば、もう少し発展して何本かを増やして、花笠温泉のほうを通るようなバス路線にできないものかなあなんて常々思っております。なぜかと言いますと、いろんなイベントを考えるとときに、お客様に来ていただく足が徳良湖はありません。ほとんどないんです。皆さんに車で来てください、タクシーで来てください、そういうふうにしかな言えておりません。今の状況で、ですので、ぜひ今まで皆さんのお話の中では高齢者のため、市民のためであったと思うんですけれども、プラスその辺り観光のお客さんのことも配慮した時間配分、そしてもっと使いやすいようなバス路線にしていきたいと思います。思うんですけれども、そのような考えはございませんか。

◎決算特別委員長(大 類 好 彦 委員)

市民税務課長。

◎市民税務課長(田 中 幸 雄 君)

お答えいたします。路線バス銀山線につきましては、尾花沢市路線バス運行費補助金交付要綱ということで、平成20年12月から市内に新たに路線を開設したバス事業者に対して補助金を交付している路線でございます。一つ目は、JRから電車等を降りて時間調整がつかないということの質問と、もう一つは銀山線の数便を花笠の湯経由にしてはどうかというようなご質問でございますが、現在、徳良湖温泉花笠の湯を經由している路線は、市営路線バスの原田線において1日2便がございます。ただ、この原田線と民間で運行しております路線バス銀山線の時間調整がつかないと、つまり要するに銀山線が尾花沢市役所を經由して、市役所で一旦降りていただいて、原田線に乗って調整することによってなっている時間が、調整つかないようなことでございます。それで、これ緑ナンバーということで、道路交通法の4条ということで、民間で山形陸運支局のほうに届出をして時間のほうも調整しているというような路線でございますので、当然もっとこれから入湯税のほうも見てみますと、花笠の湯の入湯客数もだいぶ多いということで、今後バスの委託業者、それから路線バスの業者、検討させていただきながら、ダイヤ改正も含めた協議をしていきたいと考えております。

◎決算特別委員長(大 類 好 彦 委員)

塩原委員。

◎塩 原 未知子 委員

ぜひそうしていただきたいと思います。やっぱり便利に時間があれば、乗ろうという気持ちにも市民もも

ちろんなると思いますし、実際、昨年23年度の観光誘客数というのが、県のほうで8月に出ているものなんですけれども、これを見ますと銀山のほうは合計としては約23万人、徳良湖全体に関しては32万人とあります。ですので、銀山よりも多い方々が徳良湖を利用している。しかし、足がないということが、本当にこの数字からも非常によく分かると思います。なかなかその辺りも含めて、せっかく良い観光素材がある銀山、徳良湖、さらには芭蕉関係で商店街、全部バラバラになっておりまして、観光で来たお客さんにはそれぞれに、それぞれに、というかたちで一緒に見るというのがボンネットバスの民間業者さんがツアーを組んで、やっとながったというのが昨今ですので、ぜひもっともっと観光のお客を増やして、もっともっと私たちが花笠の湯、銀山温泉に行きたいということで、足の確保がこのバスであるならば、まだまだゆっくりした時間を過ごしていただけるのかなあなんて思いますので、ぜひその辺り考慮したダイヤ改正をお願いしたいと思います。

では、次の質問にまいります。次はですね、今日も大変午後から暑くて、9月にはびっくりするぐらいの暑さなんですけれども、やはり尾花沢の職員の皆さんは素晴らしい。多分スイカを食べているから、夏クーラーもない所で皆さん頑張っていて、本当に良い仕事をなさっているんだなと思うところなんですけれども、この尾花沢すいかの皮の処理、あとは最近スイカサイダーということで、スイカの汁を次の加工ということで、いろいろムダがないような尾花沢すいかをとことん大切に健康のために使うという、もう尾花沢の姿勢が大変すばらしいと思っているところなんですけれども。この皮の処理というのが、非常に家庭では厄介なことだということをお聞きしました。以前は、生ゴミと一緒に出すのが、水分がほとんどのスイカですので、90%ぐらい確か水分だったと思いますので、皮をそのまま捨ててはいけない、細かく切ったり、畑に埋めなきゃいけないということで、私は育てられたと思っていますんですけれども、最近はどういうふうにご捨て方、告知のほうをなさっているのか、お聞きしたいと思います。よろしくをお願いします。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

環境整備課長。

◎環境整備課長(折原節子君)

申し上げます。スイカの皮につきましては、8月1日号のお知らせ版のほうに、環境衛生センターのほうでもお知らせという形で掲載させていただいたところ

ですけれども、生ゴミとして処理していただけます。ただ、この生ゴミにつきましては、水分が多いと焼却炉のほうに大変負荷がかかりますし、焼却する燃料も多額になってしまうということがございますので、水切りを十分にさせていただきよう、お願いしているところでございます。また、コンポストや、それから畑に埋めていただくというようなことをしていただきますと、ゴミの少量化にもつながりますし、また畑に埋め戻していただければ循環型ということにもなるかと思っておりますので、こういった手法も今後もご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思っております。

また、このようなゴミの処理につきましては、随時、環境衛生センターのほうから周知を図るようにしておるところですけれども、今後も連携いたしまして、市民に広く周知してまいりたいと考えております。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

塩原委員。

◎塩原未知子委員

ありがとうございます。やはりスイカの名産地尾花沢の、作るだけではなく美しく食べて、そして美しくゴミ処理する、そこまでやっていってブランドを守る、そこまでいきたいと思っております。

本当に畑に戻す、実はそのスイカの皮も大変効力があるということ、私ちょっと聞いたことがありまして、粉碎して水にして畑に戻すと、何か良い作用があるということも、五、六年前何かチラシと聞いたことがあるんですけれども、本当に捨てる場所ない尾花沢すいかということで、どんどん消費するように、あと作っていくようになれば良いかなと思っているところです。ありがとうございます。

次の質問をします。こちらのほうは横文字が多くなってまた言われそうですが、各課でさまざまな机の上にはパソコンがたくさんあると思います。その他、いろいろな情報端末、まあ周辺機器とか言いますけれども、いろいろなものがありますが、それに対しての決算書を見ますと保守管理料とか賃借料、さらには新規購入しているというような書き方があったりとか、さまざまな書き方がありますが、これは庁舎内で管轄しているサーバーやコンピューター類に関して、どれぐらいの台数があるか。まあ個数・台数なんでもかまいませんけれども、こう分かるようにお聞かせ願ひたいんですけれども。よろしくをお願いします。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

総務課長。

◎総務課長(渡辺修君)

委員のほうからご質問いただきました件ですが、サーバーについては、サーバー室のほうに28台ございます。これはいろんなそれぞれの各介護保険とか、それから税務システムとか、そういうふうなサーバー関係でございます。その他に図書館のほうに2台の計30台所有してございます。その他パソコン関係でございますけれども、パソコンにつきましては学校関係を除いてなんですけれども、355台現在所有をしているというような状況でございます。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

塩原委員。

◎塩原未知子委員

ありがとうございます。ほぼ1人1台以上分ぐらいですね、この数を見るとね、平均して。サーバーが先ほど図書館に2台あって、サーバールームのほうに28台ということは30台でありますよね。結構多いなあ。去年も30台とお聞きしましたので、変わらず今年もということだと思っているところなんですけれども、このコンピューター、まあサーバーも含めて大変夏は熱を発生するものです。最近すぐ庁舎に行くと、ここ暑いなあ、さらに暑そうだなと思っているのは、皆さんやっぱりパソコンの前で仕事をなさっている。クーラーのない課が結構多いでございます。2階のほうは、私もいつも思うんですけれども、サーバールームにあるクーラーを屋根をぶち抜いて、皆さんのところに冷たい風を送るならば、もっともっと涼しくなるのではないかなと思っているところなんですけれども。でもサーバーを守るためには多分、サーバールームという所を冷やして、皆様のところは暑いままだということになっているのかと思っているんですけれども。ぜひですね、空冷を必要とするパソコン関係が、大変高温な中で作業をなさると、パソコンにも悪いかもしいないですけれども、人間の体のほうによろしくないと思いますので、ぜひその辺り随時、まあ5年ぐらいのあれでしようかね、変えるタイミングなんでしょう。保守管理料とか賃借料という名前で、いろんな形で出ているんです。私ざっと数えました。42項目以上ありました。言葉としてはパソコン関係ですね、PC関係、コンピューターとか書いてあるものを拾い上げて、42項目ありましたけれども、この保守費用、あとは賃借料。賃借料というのは多分ものだけの金額だと思っただけなんですけれども、この保守料というのはだいたいどんな形の作業をする費用なんですか。お知らせください。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

総務課長。

◎総務課長(渡辺修君)

保守の内容でございますが、保守につきましては、いろいろ大切なシステムが入っております。例えば市民税務課とか健康福祉課の一部でございますが、いろいろ障害等が発生をした場合、それをすぐ修復をしなければならぬということ、これについては即その障害を除去するための関係の費用、それから万が一の際のバックアップをしなければならぬということ、保守点検をしなければならぬというようなことでございます。

保守料につきましては、今回の決算では1,438万円ほどになってございます。賃借料、参考までに申し上げますと、印刷機器、それからFAX等も含まれての金額でございますが、約4,900万円ほどの賃借料で事業運営をやっているというふうな状況でございます。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

塩原委員。

◎塩原未知子委員

ありがとうございます。数字を聞いて結構あつ、いっぱい台数があるので仕方がないんだと思う反面、その賃借料に関してはちょっと4,900万円、先ほど担当課からあったんですけれども、最近ですね、パソコンの値段が10年前から比べて丸が一つか二つ少なくなるぐらい、性能はよくなり、さらに買ったほうが安い。あとメーカーから直ですと、本当に保守料も含めて安価なものも出てございます。ですので10年前の見積もりの仕方、10年前の発注の仕方であれば仕方がないかもしれませんが、この辺り最近に見合った新しい仕様書の作り方など、勉強なさっているということではございませんか。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

総務課長。

◎総務課長(渡辺修君)

現在のパソコンの関係でございますが、ほとんどは買い取りということで、いろんな起債とか補助事業を活用いたしまして、1人1台というようなことになっているわけですが、賃借料につきましては、サーバーの25台分とそれからパソコンの81台分、それにプリンタ等が入りましての金額が4,900万円ほどというふうになってございます。

この買い取りについては、やっぱりリースと比較をいたしますと、価格的には非常に安いのかなというふうには基本的に思うわけですが、その時々その財政状況等もありますので、やむを得ない場合、そのリー

スというふうな形で、法的には5年間というふうにはなっておりますが、特にパソコンについては、長く使用いたしまして、7年から8年程度なるんでしょうか、そういうふうなことである程度、使いこなしていくと。その後、無償でリースが終了すれば、そのまままたリースアップをして使っていくというふうなことで、何とか対応をさせていただいている状況でございます。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

塩原委員。

◎塩原未知子委員

ありがとうございます。そうですね、臨機応変、本当に半年で野菜の価格よりもひどいというぐらい、パソコン機器の金額というのはガラッと変わってきますので、最初の計画のときと実際執行して入札するときと比べると、半年も違った場合には、かなり変わってくる場合もありますので、ぜひその辺りも入札なさるときの参考等々もう一度見直すとか、あとはもっと違う方面から考えていくとリーズナブルな予算というか、金額になるのではないかなというふうな発想のもと、さまざま検討していただきたいと思います。

前の話ではクラウド、システムを持たないでサーバーを溜め込まないで、外に逃がしてなるべくコスト削減ということで、クラウドを使うことでサーバーを少しずつ無くしていくんだというお話もお聞きしております。ぜひですね、その辺りも含めてすぐにはならなくとも、どんどん少なくしていく形にしないと、例えば火災もそうなんですけれども、地震があった場合に、電気が止まった、30台なんなりのサーバーをどうするってなったときに、保守どうの話ではなく、大事な大事なデータすらも復元できないということになりかねませんので、ぜひその辺り考慮して、早急に乘せ返られるものがありましたら、検討対象、5年を待たずとも費用対効果があれば、どんどん進めていただきたいことだと思っております。

また、そういうようなシステムのこと、プログラムのことが分かるような職員さんは、当局の係の方でいらっしゃるんでしょうか。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

総務課長。

◎総務課長(渡辺修君)

専門の職員ということでございますが、ネットワークを使用しておりますので、そのサーバー室の管理も含めまして、係としては情報統計系のほうで今、担当をしております。ただ、そういうふうないろんな広範な専門的な分野の専門職の職員というのは、今現在お

りません。したがって、それぞれ個人個人の研修を積み重ねまして、現在なんとか対応をさせていただいているというふうなことでもございまして、いろいろご指導いただければというふうに思っております。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

塩原委員。

◎塩原未知子委員

ぜひ355台もあるんですしたら、1人ぐらい職員さんで、勉強を特にしていただいても結構ですし、そういう新人の職員を採用していくという形でも結構ですので、中に抱えていたほうが良いのではないかなと思います。これを先ほど言うと、保守管理ということで外注しているということをお聞きしましたので、それをできるだけクラウドで逃がしたり、さらには個人個人の勉強の下に、パソコンの管理ができるのであれば、それも良いかと思っております。ぜひ、やっていただきたいと思っております。

あとはですね、もう少しお聞きしたいことがあります。いろいろ42項目、私ピックアップしたときにありましたが、ネットワークに関する費用、パソコン等ではなく通信の費用はどのような推移をしているんでしょうか。去年は光ファイバーが3月か1月、冬に入っただとお聞きしているんですけども、市内全域に光ファイバーが入りましたけれども、通信費が下がっていると思われまして。どのように下がっているか、お聞かせいただきたいと思っております。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

総務課長。

◎総務課長(渡辺修君)

光ファイバーが情報の事業ですね、それを取り入れたことによりまして、前は専用で回線を引いておまして、これが光ファイバーなることによって、その回線を使ってしている施設が出てきましたので、その分の費用的には約250万円程度の回線の変更によって減額に、22年度と23年度の比較でございますけれども、250万円ぐらいの効果があつたというふうなことでもございます。

◎決算特別委員長(大類好彦委員)

塩原委員。

◎塩原未知子委員

ありがとうございます。少しずつITに係るコストを削減して行って、そこからぜひ1台でも2台でも、庁舎の中にクーラーを付けるような形にしてっただけかかなと思っております。余計なことかもしれないんですけども、夏の暑いときに本当にパソコ

ン、ファンがすごい音、悲鳴を上げている状態を何度か私庁舎内で発見しまして、本当に思っているところです。

以上、私の質問は終わりなんですけれども、一つだけホームページの更新の講習会など、新しい職員さんにはどのように講習なさっているのか、お聞かせください。

◎決算特別委員長（大 類 好 彦 委員）

総務課長。

◎総務課長（渡 辺 修 君）

ホームページについてですが、現在、使用していますホームページについては、間もなく更新の時期がやっています。それで、今のホームページのトップページも含めまして、より見やすく、誰でも操作ができるようにということで、今現在はなかなか、当初入れるときは、それぞれ担当課のほうでその担当職員がホームページのほうに携わってやっておったんですが、なかなか人の異動関係がございまして、なかなか研修まで至ってない点がありますので、今現在は各課のそういうふうな詳しい方に集まっていただきまして、実は検討委員会を立ち上げて進んでございます。それがだいたいまとまりつつありますので、今度は誰でも操作ができるような、そういうふうな研修会をぜひやっていきたいなというふうなことで、その更新作業がスムーズにいくように、なんとか対応をしていきたいなというふうなことで、対応している状況でございます。

◎決算特別委員長（大 類 好 彦 委員）

塩原委員。

◎塩 原 未知子 委員

ありがとうございます。そのように皆さん本当に頑張ってくださいと思います。今回からインターネット中継が入りまして、大変、皆さんあちこちから見たよという声を聞くと励みになっているところです。平均すると1日200人ほどのアクセスがあると、カウントを見まして割り算してみたところ、なっておりますのでうれしく思っているところです。以上、私の質問を終わります。